



## &lt;先進地紹介&gt;

**愛知県豊田市の景観計画、まちづくり交付金事業について****豊田市の概要**

豊田市は愛知県の中部に位置し、面積 918.47 km<sup>2</sup>、人口 42 万人、平成 17 年 4 月に旧豊田市と周辺 6 市町村が合併して出来た県内最大のまちである。昭和 10 年に自動車工場を誘致し、現在では世界一の「クルマのまち」である。

**豊田市景観計画の経緯**

豊田市では、昭和 63 年に「豊田市都市景観基本計画」を策定し景観に配慮しまちづくりを進めてきた。しかし、平成の大合併に伴いさまざまな個性を有する都市として生まれ変わり、雄大で圧倒的な緑量を誇る森林や各地にみられる地域固有の歴史、文化、観光などに関する多数の資源が加わり、これまでの工業都市としてのイメージが大きく変わりました。里山や奥山などの自然は、美しい風景の大切さを再認識させ、都市部の景観においても周囲を取り巻く自然を活かした景観づくりの大切さを教えてくれました。このような市を取り巻く社会的変化や時代の要請などに対応し、景観形成の方向性を示し、市民や事業者と行政

が一体となって、豊田市らしい魅力ある景観づくりの取り組み「豊田市景観計画」の策定が平成 17 年より始まりました。

**景観形成の基本目標**

豊田市では、市全体での景観づくりを一体的に進めていくため景観計画区域を市全域とし、地域ごとに異なる特性の基礎調査を行い、それらの特色に応じてゾーニングを行いました。そしてパブリックコメントなどの市民参加による検討を重ね、平成 20 年 3 月に「豊田市景観計画」策定に至りました。

景観形成の基本的な考え方として、豊田市においては多様な生物の源である市の中心を流れる矢作川の流域が、中心市街地及びその郊外の全ての地域における景観の素地となっています。また、市全域にわたって歴史、産業、人々の生活の営みなどが景観形成していることについて認識して取り込んでいます。

豊田市では「目指すべき景観像」と、それを実現するために 4 つの「基本目標」を設定しました。

**目指すべき景観像**

いちばん美しいまち・豊田  
人と自然と産業が響きあう

**4 つの基本目標****1 生命を育み環境を守る自然景観づくり**

～豊かな水と森を守り育み、人と生き物にやさしい環境を持った景観をつくります～

**2 豊かな心を育む生活景観づくり**

～快適性と安全性を基礎に、愛着と誇りが持てる景観をつくります～

**3 活力を生み出す産業景観づくり**

～モノづくり産業の活気を感じられ、また、交流と賑わいが見られる景観をつくります～

**4 文化を培う歴史景観づくり**

～地域の伝統を受け継ぎ、歴史と文化の香り高い景観をつくります～



### 計画策定後の取組み

本年度より計画の運用が始まり10月からは建築物等の届出制度が始まりました。用途地域ごとに一定の基準を設け、さらに計画で定めた中心市街地や森林地域など4つのゾーン毎に建築物の配置や形態、色彩、緑化などの景観形成基準を定めたもので、今年の1月までに事前相談も多数あり、約40件の届出があったとのこと。

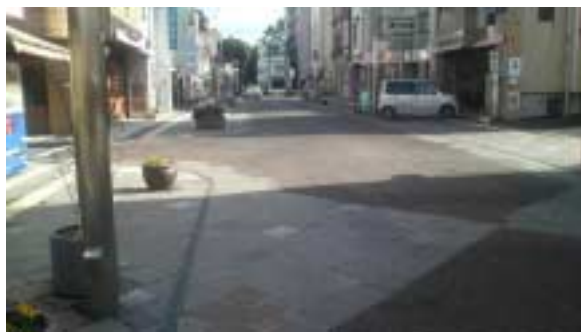
この届出制度の開始に当たって、景観形成ガイドラインの冊子等を作成し、市職員や建築士等を対象にした講習会を実施しています。また、近隣の大学教授等4名の方に協力をいただき「景観アドバイザー制度」を設け、毎週木曜の午前中に建築に関する事前相談を無料で行っています。アドバイザーには、このほか景観に関する様々な相談に協力をいただいているそうです。

また、計画の中で示されている「景観重点地区（候補地区）」の3地区（中心市街地、国道248号地区、足助地区）においては、住民の方々と地区における今後の基準策定などの議論を行い、発展的な景観計画を目指しています。

### 地域住民との共働による道路整備

今回の現地視察の中で一番印象的だった場所は、まちづくり交付金でリニューアルされた市道中町線です。

市民と行政の共働を目指す「まちづくり基本条例」をもとに、平成17年に商店街の方や地域住民を含めた「桜町ほうだら会」が発足し、市や商工会議所等と連携しながら街並みづくりの方向性を検討してきました。



【拳母神社を望む市道中町線】

「史跡・緑に囲まれた拳母神社の参道としてのみち」、「モダンな雰囲気漂うみち」を中町線のみちのイメージとし、現在の幅員を変えずに歩道と車道の段差の解消や車のスピードがゆっくりになるデザインなど、歩いて楽しい桜町らしいみちづくりについての考えをまとめました。

これらのコンセプトをもとに整備されたみちは、実際に訪れてみると、落ち着いたあるおしゃれな街並みで、拳母神社をはじめとする周りの緑と調和した素敵な景観でした。にぎわいを失いつつある各地の商店街などでは、このようなまちづくりが求められるのではないかと思います。

### 豊田市訪れた感想

豊田市はトヨタ自動車のお膝元、多くの工場が立ち並びまち。訪れる前にはそのような想像をめぐらしていましたが、最初に訪れた豊田市産業文化センターをはじめ、二つの駅を結ぶ歩行者空間（ペDESTリアンデッキ）、駅前再開発による道路整備、復元された河川など、40万人都市に相応しい、とても近代的な街並みでした。

今回は訪れることは出来ませんでしたが、市域の大半は多くの自然を残した森林地域・田園地域であり、古河市とは、人口・面積・財政規模など比較にはなりません、合併に伴う市域の特性など参考になることばかりで、これから市民との連携による景観まちづくりにおいて、貴重な経験をさせていただきました。



【まちづくり交付金事業：採養院川環境整備】